

令和元年度 佐賀県教育センター「個別実践研究」

中学校道徳科

研究主題

自ら考え行動できる心豊かな生徒を育てる学習指導の工夫
—体験活動を生かした授業づくりを通して—

高取 須賀子（佐賀県教育センター所員）

1 研究の概要

(1) 研究主題

自ら考え行動できる心豊かな生徒を育てる学習指導の工夫
—体験活動を生かした授業づくりを通して—

(2) 主題設定の趣旨

中学校では、今年度より「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）が全面実施となりました。いじめ問題や急速な情報化における環境の変化等を理由として、生徒の人格の基盤となる道徳性を養う指導が強く求められています。

柴原弘志は、「小学校で身に付けた道徳的諸価値を基盤として、自分自身の価値観を形成していくために、道徳的価値について自分の考えをもち、自分を見つめ常に自分の問題として捉え、自分ならどうするか、何が実践できるのかをよく考える力を指導しなければならない」⁽¹⁾と述べています。

また、中学校学習指導要領解説総則編によると、「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする」⁽²⁾とあり、道徳教育の要である道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」⁽³⁾としています。さらに、「分かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道徳科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すことによって、そこから本当の理解が始まる」⁽⁴⁾とあります。これらの点を踏まえ、今回、授業の中で教材と出会い、出来事や様々な人物の行動や生き方について学ぶ際、自らの体験活動について想起させることで、生徒自身が主体的に問題意識をもち、自分のこととして思考できます。そして、他者との対話を通して自らを振り返ることで多様な考えに触れ、自らの考えが広がり、深まり、実感につながります。その結果として道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つと考えました。

以上のことから本研究では、学習過程に生徒が体験したことを想起させる活動を取り入れ、授業における手立てや学習活動を工夫し、その有効性について検証することとしました。そのことによって生徒自身が自らのもっている道徳的価値観を振り返り、人間としてのよりよい生き方を考えることにつながると考え、本主題を設定しました。

(3) 研究の目標

道徳科の授業において、道徳的実践意欲と態度を育てるため、体験活動を生かし、他者との対話を取り入れた指導方法を探る。

(4) 研究の仮説

道徳科の導入場面や展開場面において、生徒自身の体験活動を想起させ、他者との対話を通して自らを問い直す話し合いを行えば、自らの行動に込められた道徳的価値に気づき、よりよい行動をしようとする気持ちをもつことができるであろう。

(5) 研究方法

- ア 道徳科における指導方法に関しての理論研究
- イ 体験活動を生かした学習過程における話合いの工夫と検証授業
- ウ 生徒を対象にした道徳に関するアンケートとワークシートの内容分析及び考察

(6) 研究内容

- ア 道徳科の授業実践に関する先行研究や文献研究を行い、授業の工夫改善を図る。
- イ 道徳性を養うための教材を基に、生徒の実態と体験活動を生かした学習過程に合わせた話合いを工夫し、それらを取り入れた検証授業を実施する。
- ウ 道徳に関するアンケートやワークシートの記述等を基に、手立ての有効性を考察する。

2 研究の実際

(1) 文献等による研究

- ア 学習指導要領における体験活動に関わる指導について

学習指導要領解説の第4章第2節道徳科の指導1指導の基本方針(5)に「体験活動を通して生徒が気付く様々な道徳的価値は、それらがもつ意味や大切さなどについて深く考える道徳科の指導を通して、内面的資質・能力である道徳性としてより確かに定着する。道徳科の指導においては、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かし、体験を通して感じたことや考えたことを基に対話を深めるなど、心に響く多様な指導の工夫に努めることが大切である」⁽⁵⁾とあり、多様な指導方法の工夫として体験活動を基にする点が挙げられています。また、第4章第2節道徳科の指導3学習指導の多様な展開(2)体験の生かし方を工夫した指導の中にも「道徳科においては、生徒が日常の体験を想起する問いかけをしたり、体験したことの実感を深めやすい教材を生かしたり、……対話を深める活動、模擬体験や追体験的な表現活動を取り入れたりすることも考えられる」⁽⁶⁾とあります。指導上の工夫という点で体験活動を活用することは、学校行事や総合的な学習の時間等の中で行った体験活動における指導と道徳科における指導が相互に関連し合い、効果を高め、生徒の問題意識を高める学習につながることが分かります。

- イ 道徳科の授業と体験活動の考え方について

道徳科の授業に体験活動を生かし、関連付けることについて、横山利弘は「振り返ることがなければ体験での学びは自分の成長につながらない。道徳の時間というのは、この『振り返り』の場でもあるのです。体験と道徳の時間の関係は相補い合うもの、相補的なものです。いずれかいっぽうが欠けても人格の形成はできないのです。体験活動を『生かす』ためには道徳の時間が必要であり、道徳の時間の目標を達成するためには体験活動を『生か』さなければなりません。道徳の時間は、子ども自身が自分の体験を振り返りながら資料を読み、道徳的な価値を内面の深いところで自覚する時間です。いってみれば、体験活動は仕込みであって、道徳の時間はこれを醸成するものなのです。」⁽⁷⁾といい、「『体験活動』といわれるものは学校教育の中で意図的・計画的に用意されるもので、子どもたちが共通して経験するという特性があります」⁽⁸⁾と述べています。よって、指導過程の中に、生徒が共通して経験した活動について自身の取組を想起させ、振り返る活動を取り入れることで体験したことを通して自己との関わりの中で道徳的価値について考えることができると考えます。そして、共通した経験を基に友達との対話を行えば個々の意見を共有し、思いを深めることができると考えました。その結果、社会の中で生きる道徳的な実践意欲と態度につながるのではないかと考えます。

(2) 実態調査

検証授業を行う第3学年の生徒27人を対象に事前実態調査を実施しました（R1.9月）。

この調査は、本研究に必要な授業に関すること、体験活動に関することを中心に考えた調査項目に従って回答する形で実施しました（資料1）。

	No	質問項目	(できている) （そう思う）	(だいたいそう思う) （できている）	あまりそう思わない （できていない）	(できていない) （そう思わない）
道徳の授業について	1	道徳の授業は好きだ。	4	3	2	1
	2	道徳の授業は自分にとって大切なことがあると思う。	4	3	2	1
	3	道徳の授業では自分の思うことを発言できている。	4	3	2	1
	4	道徳の授業では、今までにあったことを思い出してその時の自分と比べながら考えている。	4	3	2	1
	5	道徳の授業では、これからの自分は、こうしていきたいと考えている。	4	3	2	1
	6	道徳の授業でよく覚えていること、内容などを教えてください。 (中学校に入ってから今までに学習した内容で)				
話し合いについて	7	話し合い活動が好きである。	4	3	2	1
	8	話し合いで友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている。	4	3	2	1
	9	話し合いで、はっとしたり、なるほどと思ったりすることがある。	4	3	2	1
	10	話し合いで自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	4	3	2	1
	11	話し合いは、自分の考えを広げたり、深めたりするために役に立つと思う。	4	3	2	1
自分のこと	12	自分には、良いところがあると思う。	4	3	2	1
	13	将来の夢や目標をもっている。	4	3	2	1
	14	中学校卒業後の進路を決めている。	4	3	2	1
	15	ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある。	4	3	2	1
	16	友達やたくさんの人と協力してみんなで取り組むことはいいことだと思う。	4	3	2	1
	17	学級や学校などで自分の役割を自覚し、責任をもって取り組むことができる。	4	3	2	1
	18	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある。	4	3	2	1
	19	〇〇町や日本の伝統文化は、大事にしたいと思う。	4	3	2	1
学校行事のこと	20	体育大会本番では、道徳で学習したこと（むかで競争）を思い出した。	4	3	2	1
	21	体育大会では、どんな力をつけましたか。具体的に書いてください。				
	22	つけた力をどこかで生かしましたか。（いつ、どこで、どのようなときに…など具体的に書いてください。）				
	23	修学旅行では、どんなことを学んできたいと思っていますか。				
	24	文化祭や合唱コンクールでは、どんなことを心がけたり、学んだりしますか。				
道徳について	25	その他、道徳について自由に自分の思いを記述してください。				

資料1 実態調査アンケート様式

1学期5月の体育大会前に「むかで競争」の授業を担当にしてもらいました。生徒が体育大会で行う学年競技が「むかで競争」であるため、生徒の実感につながりやすいと考えたからです。資料1の質問項目20「体育大会本番では、道徳で学習したこと（むかで競争）を思い出した」という問いに対し、「そう思う」11人（41%）「だいたいそう思う」11人（41%）で合わせて22人（81%）おり、実際に授業で学んだ状況や場面に出くわした場合、学習したことを生徒がよく思い出していることが分かりました（次頁図1）。

また、実態調査（9月）では、「道徳の授業でよく覚えていること、内容など」に対し、表2の

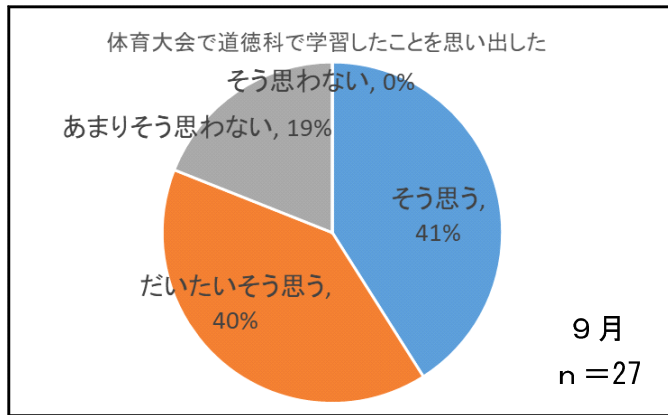


図1 資料1の質問項目20の回答結果

ような結果となりました。体育大会や中体連の前に行った授業「むかで競争」「試合に出られなければ意味がない」をよく覚えていると挙げた生徒が22人（81%）でした。また、実際の活動を通して身に付けたと思う力について生徒の記述を見ると、「協力し合う力」「あきらめない心」「団結する力」を身に付けたとの記述が多く見られました。また、「初めはうまくいかなかったも、みんなで考えてうまくいくようになった」との記述も見られ、道徳の授業で学んだ道徳的価値を体験活動を通して、生徒が身をもって実感しているように感じました。そこで、10月には文化祭、合唱コンクールがあるので、この機会も授業の中で生かし、道徳的実践意欲を高めたいと考えました。

表2 資料1の質問項目6の回答結果（複数回答可）9月 n=27

「むかで競争」（茨城県教育委員会自作資料）	17人	2年次「六千人の命のビザ」（東京書籍）	3人
「試合に出られなければ意味がない」（中学校道徳「自作資料」No. 3）	5人	2年次「タッチアウト」（あかつき）	1人
「郷土を彫る」（東京書籍）	1人	2年次「カーテンのむこう」（教育出版）	1人
自分の立場や友達の立場で話し合う（自作資料）	2人	無回答	1人

11月に予定している授業に関わる質問項目として、「中学校卒業後の進路を決めている」「将来の夢や目標をもっている」という2つの項目があり、9月の調査では、いずれの項目も「そう思う」と言える生徒が4割程度でした。一方、「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」という生徒が6割程度おり、まだ卒業後の進路選択を悩んでいる生徒が多いことが分かりました（図2、図3）。夢や目標をもち、進路等を選択している生徒もそうでない生徒も、授業内容が生徒自らの進路選択に対する考えを深める手助けとなればよいと考えています。

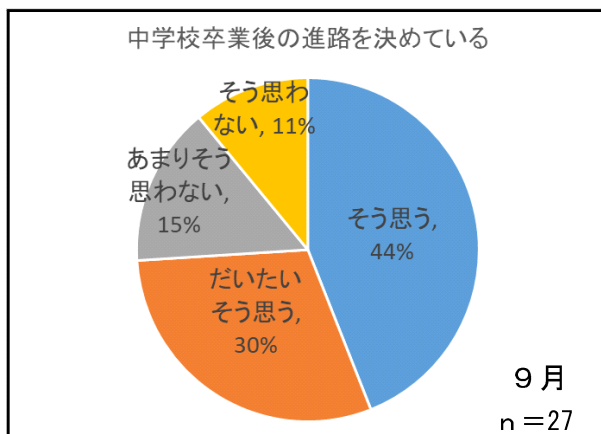


図2 資料1の項目14の回答結果

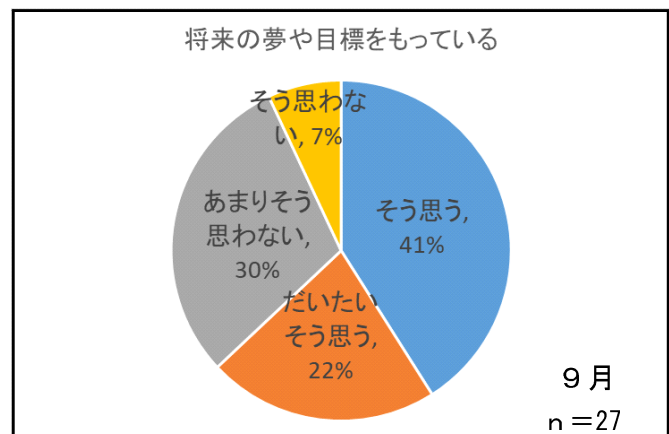


図3 資料1の質問項目13の回答結果

(3) 本研究における考え方や取り入れる具体的な手立て

押谷由夫は、道徳的実践力を育成するために、「学んだことを意識できる体験活動等」と「体験に関連させた内容項目の授業」のサイクルを提示し、「これらの流れを年に数回繰り返すことで、道徳的実践力は高まる」⁽⁹⁾としています。その考えを基に次頁

図 4 のようなイメージ図を作成しました。

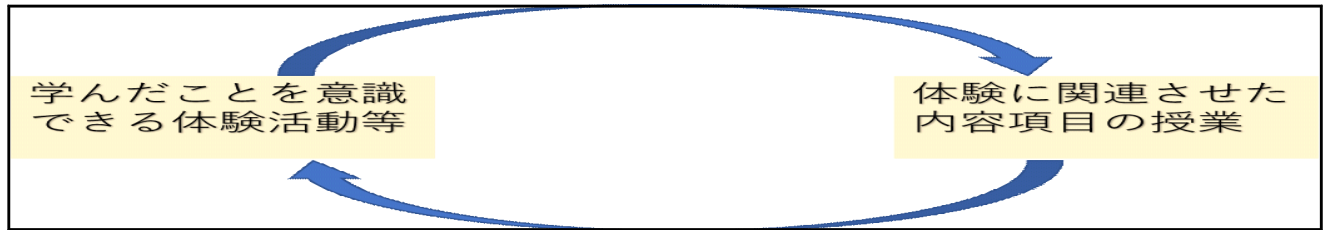


図 4 体験活動と授業のサイクルイメージ

そこで、授業計画として、3年生の授業の一部を、体験活動との関連を考え、表 3 のように位置付けました。体験活動については、今回、学校で行う体験活動のうち、生徒が共通して体験しているものに限定しました。また、学校行事については、事前の練習や準備段階も体験活動と捉え、授業を行うこととし、その後の体験活動の実際につなぐ形で計画を立てました。

表 3 体験活動に関わる授業計画と検証授業の位置付け

実施時期	5月	6月	9月	10月	11月	11月
体験活動	体育大会練習	中体連に向けての練習	修学旅行準備	文化祭練習 (検証授業①)	進学説明会前	三者面談前 (検証授業②)
体験活動に関わる内容項目	よりよい学校生活、集団生活の充実 節度、節制 友情、信頼	よりよい学校生活、集団生活の充実 希望と勇気、克己と強い意志 友情、信頼	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	思いやり、感謝 友情、信頼	希望と勇気、克己と強い意志 思いやり、感謝	勤労 向上心、個性の伸長 希望と勇気、克己と強い意志
授業で扱う教材	「むかで競争」 (自作教材)	「試合にでられなければ意味がない」 (自作教材)	「郷土を影る」(東京書籍 1年)	「埴生の宿」(東京書籍 3年)	「進路のゆくえ」 (NHKforSchool)	「好きな仕事か安定かなやんでいる」 (東京書籍 3年)
主題 (内容項目)	集団の中の一人として (友情、信頼)	集団の中での自分の在り方(希望と勇気、克己と強い意志)	郷土と伝統を心に刻む(郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度)	ともに生きようとする思い (思いやり、感謝)	進路選択と家族の思い (思いやり、感謝)	自分の将来の生き方を考える (勤労)
つながる体験活動	体育大会	中体連	修学旅行(広島・宮島)	文化祭・合唱コンクール	進学説明会	三者面談

授業計画に沿って、内容項目を踏まえたねらいに迫るために以下のような手立てを取り、工夫をしました。

ア 学習指導過程への体験活動の活用

授業のねらいに応じて、学習指導過程の中に体験活動に関わる内容を活用するようにしました。1時間の学習指導過程のどの部分で活用するかによって効果が違うと考えました。

導入では、アンケート結果・映像・画像などを提示し、体験活動時の思いや考えなどを想起させます(図 5)。生徒に授業全体や教材を身近に感じ取らせ、自分事として考えられるようにするために活用します。授業の雰囲気づくりにも効果的だと考えました。

展開では、教材に関連した体験活動についての発問を適宜行います。その結果、自分自身を見つめ、体験活動時に感じたことや考えたことを具体的に

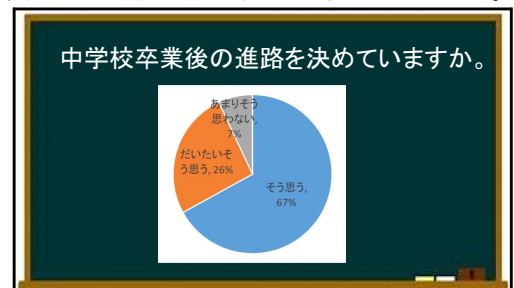


図 5 アンケート結果スライド例

想像することができるので、生徒の思考の手助けになります。また、ねらいとする価値についても、今までの自分を照らし合わせて考え、自分を深く見つめることができると考えます。

終末では、感じ取った道徳的価値に対する思いを継続できるように、日常生活に関連付けるようにします。教師の説話を行うときは、後につながる体験活動に触れるだけでなく、地域や社会の中での体験や事例などを用い、実際の場合をイメージすることで意欲につなげるようにします。

イ 対話を深めるための工夫

(ア) 多様な形態の話し合い

話し合いの形態は、ペアやグループ、自由交流など様々なものの中から、ねらいに合わせて選択します（表4）。また、話し合いに個で考える時間も含めます。自分自身と向き合い、自己内対話を行わせるために、毎時間、話し合いの後に個人で考える時間を取り入れるようにします。そして、そこで自己の振り返りをさせます。今後の活動に向けての生徒自身の思いや考えをしっかりと書かせるための時間を確保し、心の中の整理をさせます。

表4 話し合いの形態とねらい

ケース	形態	教師のねらい
自分の意見をもち、すぐに意見交換をする場合	ペア（座席の前後、左右など）	短時間で確実に友達の意見に触れさせる。 全員が発言でき、自分の感じ方、考え方をはっきりさせる。 自分の意見に自信をもたせる。
1つのテーマについて話し合う場合（似ている意見、違う意見も含めてまとめる・分類・比較・検討する場合）	グループ（4人程度）	じっくり話し合わせる。 考えを出し合わせる。 たくさんの考えに触れさせる。
個の意見が2つ以上の立場に分かれる場合	自由交流（教室を動いてペア、数人での交流）	多様な考えに触れさせる。 自分とは違う立場の意見に触れさせる。 それぞれの意見の根拠の違いに気付かせる。
全員に意見を発表する場合・全員で議論や討論をする場合	全体	自由交流で話せなかった生徒の意見も知らせる。 教師の意図的指名により、全員にある生徒の意見に触れさせる。
自己内対話をする場合	個	事前に自分の考えをもたせる。 グループや自由交流等で触れた様々な意見を受け、心の整理をさせる。

(イ) ワークシートの工夫

思いをできるだけたくさん書かせるのではなく、ねらいに向かうために必要なことを記述させるようにしました（資料2①②④）。

また、流れに沿って考えが深められるように矢印を示し、活動を進めやすくしました。

さらに、自由交流の際の友達の考えを記録する欄を設け（資料2③）、本時の振り返りを必ず入れました（資料2⑤）。

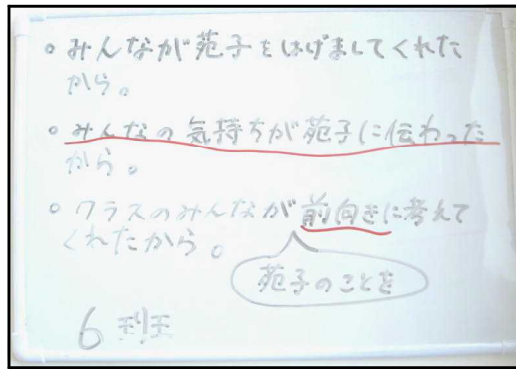
(ウ) ホワイトボード、ネームプレート等の使用

グループ活動では、ホワイトボードを活用しました。友達同士で考えを出し合いながら、まとめたり付け加えたりして考えを深めることができると考えました。消して書き加えたり、新しい言葉に変えたりできるので気楽に使い、生徒も安心して話し合いができると思いました（次頁資料3）。

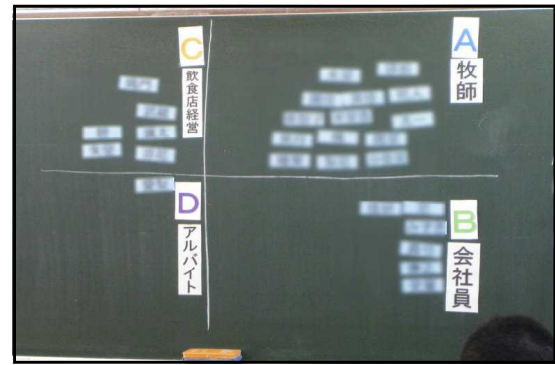
ネームプレートは、自由交流を行う際、誰がどのような意見をもっているかを知ることがで

資料2 ワークシート様式

き、「〇〇さんの意見を聞いてみたい」というような相手意識をもって交流させるために活用しました（資料４）。



資料３ ホワイトボードの活用例



資料４ ネームプレートの活用例

(4) 授業実践

ア １回目

事前に行った実態調査の「友達やたくさんの人と協力してみんなで取り組むことはいいことだと思う」という項目では、全員が「そう思う」21人（76%）か「だいたいそう思う」6人（24%）と回答していました。しかし、「文化祭や合唱コンクールでは、どんなことを心がけたり、学んだりしますか」という項目では、「自分のため」「自分の力を出す」「自分がよくなるようにしたい」と回答している生徒が4人いました。このことから、具体的な取り組みの中では、自分のことのみ考え、周りを思いやるところまでは至っていない生徒がいることが分かりました。今回の授業で、体験活動のことを想起させることで、クラスの中で誰もが大事な存在であることや、よりよい人間関係の在り方について考えさせることで、周囲の人を大事にする思いを抱かせたいと考えました。

実施時期 10月

主題名 周りの人に支えられて【内容項目B－（6）思いやり、感謝】

教材名 埴生の宿（出典「新しい道徳3」東京書籍）

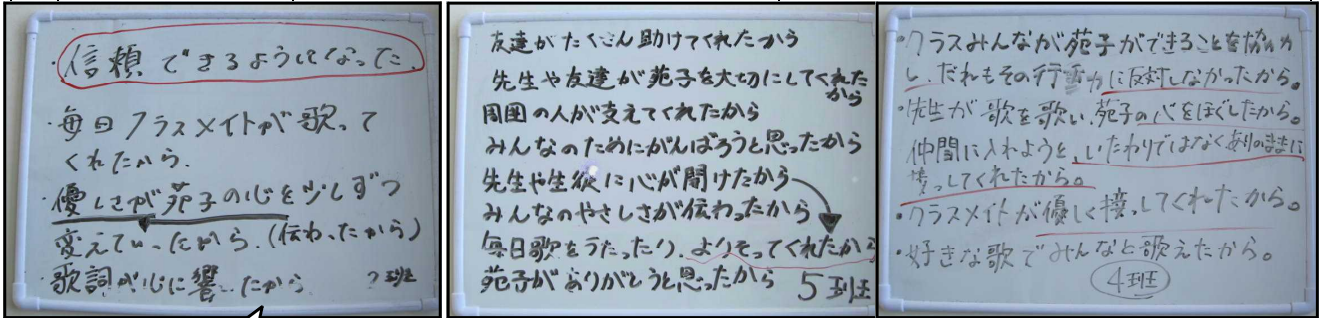
ねらい クラスの仲間と主人公が関わり合い、変容していく姿に共感することで、誰に対しても思いやりの心をもって共に生きようとする意欲を高める。

授業の実際

本研究の内容に関わる手立て及び発問・ゴシック体

	学習活動	主な発問(○・T)と生徒の反応(S)	教師の働き掛け(予想される生徒の変化〔教師の願い〕)
導	1 日常生活のある場面について考える。	T：振り返ってどうでしたか。 S：頑張った。 S：今の方が声が出ている。 T：何のために合唱コンクール	・昨年度の合唱コンクールの動画を見せて想起させるようにした。 生徒自身が取組の状況を想起し、今後の自分自身に生かそうとしている。

S：一緒に活動する楽しさを感じたから。
S：仲間だと思ふ気持ちが伝わったから。

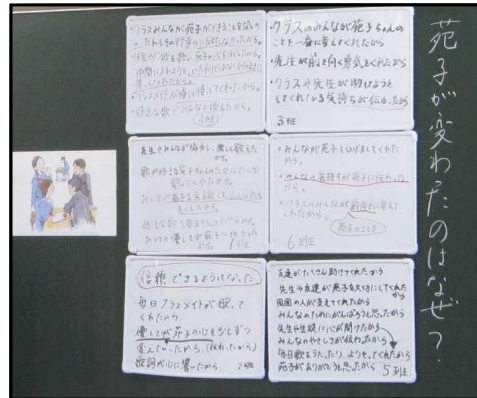


資料6 グループのホワイトボード(一部)

各グループで意見を出し合いながら、共通点や補足等を書き込んでいた。朱書き部分は、全体交流の際、他のグループの意見で納得できる、なるほどと思ったことを発表により、教師が書き込んだもの。



資料7 活動中の生徒の様子



資料8 全体交流の様子

【書く活動②】

個→全体

○周りの人にとってあなたはどのような存在でありたいですか。
S：仲間を支えることができる存在。
S：仲間から信頼される存在。
S：積極的に関わり、協力できる人。
S：一緒にいて、安心できる人。

・全体共有の際、グループから出たホワイトボードを見て、キーワードや新しい発見だったことを尋ね、色ペンで囲んだり、関連したものをラインでつないだりして思いを深めた(資料6, 8)。

・様々な行動をとるのは「自分のために」としか考えていない生徒がいるので、「指揮者は誰のためにするのか」と問い、身近な例を出し、周りの人の存在や大切さに気付かせるようにした。
・早く終わった生徒には、そのような存在になるために必要なことを考えるよう個別に指示した。

多くの人と関わりあって生きていることに気付き、大事にしようという気持ちをもっている。

／ 終 末	3 これからの自分について考える。 【書く活動③】	○今日の学びや思ったこと、考えたことなどを自由に書こう。	・前の発問で出た個々の意見からつなげ、これからのことも含めた本時の振り返りにするように伝えた。
-------------	------------------------------	------------------------------	---

イ 2回目

進学説明会前の10月下旬には、担任により「進路のゆくえ」NHKforSchoolの動画を用いた授業が行われました。目先の高校進学だけではなく、その後の人生について考えて進路を選択する場合、自分の思いと家族の思いがあり、それらを考えながらよりよい進路選択をするということについて考える授業が実施されました。その後、進学説明会があり、11月下旬には三者面談が控えていました。また、11月に行った事前実態調査では、「中学校卒業後の進路を決めている」には「思う」「だいたい思う」と答えた生徒が25人（93%）（図6）で9月の調査20人（74%）より増えていました。それに対し、「将来の夢や目標をもっている」には、9月より10%程度増えているものの、「思う」「だいたい思う」と答えた生徒は20人（74%）（図7）で図6の項目と比べると少なくなっています。この点を踏まえ、今回の授業（11月中旬）で学んだ様々な勤労観を進路選択の助けとしたいと考えました。

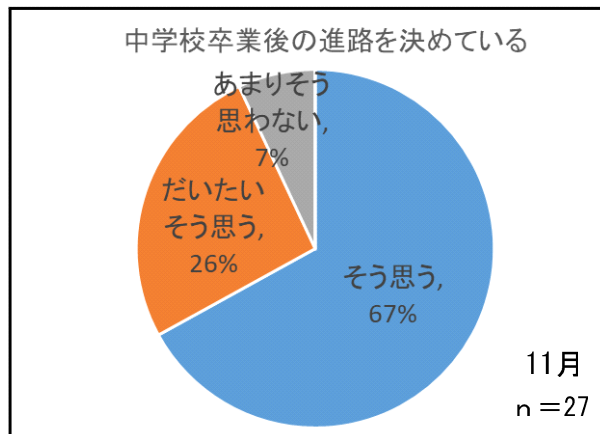


図6 資料1の質問項目14の回答

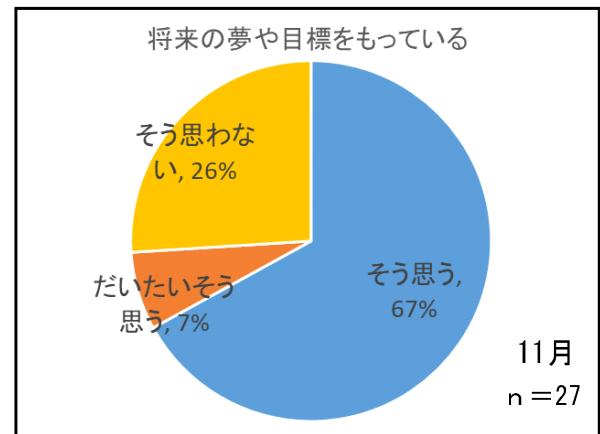


図7 資料1の質問項目13の回答

実施時期 11月

主題名 将来の自分を見つめて 【内容項目C-(13) 勤労】

教材名 好きな仕事か安定かなやんでいる

ねらい 職業選択に関するさまざまな立場からの意見に触れ、将来の生き方について考えを深め、充実した生き方を実現しようとする心情を育てる。

授業の実際 本研究の内容に関わる手立て及び発問・ゴシック体

	学習活動	主な発問(○・T)と生徒の反応(S)	教師の働き掛け(予想される生徒の変化〔教師の願い〕)
導入	1 以前学習した内容を想起する。	T: 10月末に動画を使って学習した道徳の授業を覚えていますか。どんな内容でしたか。 S: 「進路のゆくえ」 S: サッカー選手と介護福祉士の話。	・生徒自身が取組の状況を想起し、今後の自分自身に生かすようにさせた。 ・進路に関する学習をしたことから、事前調査のアンケートの話題につ

／ 展 開	2 教材を読んで考える。 個→ペア 【書く活動①】 個→自由交流→全体	S：どちらにするか悩む話。 T：11月にとった道徳アンケートの結果を見てみましょう。 ・中学校卒業後の進路を決めていますか。 ・将来の夢，目標が決まっている人は教えてください。 ・何を大事にして決めましたか（決めますか）。 ○あなただったら好きな仕事を選びますか，安定した仕事を選びますか。理由も書きましょう。 S：好きな仕事を選んだよ。安定した仕事でも好きじゃなければ続かないから。 S：安定した仕事を選んだけど，好きな仕事に就いても生活できないと困ると思う。 ○四人の意見を読み，自分の考えに近い，納得いく意見を選び理由や根拠を書きましょう。 S：A 気の進まないことを無理してやるより，やりたいことを喜んでやる方が多くを成し遂げられるという点に共感したから。 S：B 現実的な生き方を選んでも，充実した生活を送ることができるから。 S：C 46歳の男性でもいろいろなことをしているので，自分で	なげた。 ・PPTで円グラフを提示して視覚的に捉えさせるようにした（前頁図6，図7）。 ・進路を決めている生徒もいるが，迷っている生徒もいることにも気付かせ，大事な判断だから迷っているのだと知らせた。 ・進路が決まっていなくても，悩んでいても，それぞれの思いを大切にさせるようにした。 ・自分が進路を実際に選択する立場に立って，真剣に考えさせるようにした。  資料9 ペア活動の様子 進路を選択する上で大事だと思うことについて自分なりの考えをもっている。 ・A～Dの四人のどの意見を選んだのか，黒板にネームプレートを貼らせた（次頁資料10）。 ・自由交流では，同じ意見の人とも交流するが，特に違う意見の人との交流を大事にさせ，積極的に交流するように促した。 ・友達の意見は簡潔にメモさせるよ
--	---	---	---

／ 終 末	【書く活動②】 個→全体	もできると思うから。 S：D自分も今やりたいことが成功するか分からなくて、悩んでいるから。  資料11 自由交流の様子 ○大学生の投書にアドバイスしよう。今までの学習を生かしてあなたなら、どのようなアドバイスをしますか。具体的に書きましょう。 S：やりたいことが決まっているなら、まず行動してみて感じることもあると思うので、そのことを生かしてみてはどうですか。 S：自分が好きな仕事をした方が悔いは残らないし、やり直しもできると思いますよ。 S：会社などに一旦入社して、このままで良ければ会社に、嫌と思うなら地方に行くといいと思います。 ○今日の学びや思ったこと、考えたことなどを自由に書こう。 【書く活動③】	うにした。  資料10 ネームプレートによる可視化 自分の将来において充実した生き方にしようという気持ちをもっている。 ・現在日本にある職業数(約17000種)を知らせ、たくさんある中から選択していくことを意識させた。 ・近い将来、職業選択することが出てくることを伝え、今後の生活に生かしたいことにつなげられるような振り返りにするよう伝えた。

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

手立ての有効性を見取る視点として以下の3点を設定し、2回の授業を考察しました。

検証の視点

視点Ⅰ 体験活動を基にした、道徳的価値の理解（生徒の自覚）が見られたか。

視点Ⅱ 対話による多面的・多角的な見方、考え方が見られたか。

視点Ⅲ 実践意欲と態度、これからの生活への生かし方が表現されていたか。

ア 10月の授業で使用した生徒ワークシートによる考察

視点Ⅰについて、生徒全員のワークシートの本時の振り返りの記述から、身近にある合唱コンクールの練習のことを想起し、振り返ることで、教材の内容を自分事として捉え、自分自身を振り返り、何らかの思いを抱くことができていたように思います（資料12①）。合唱だけではなく、生き方に関わる内容も記述できている生徒（11人）も多く見られました（資料12①②③）。

また、視点Ⅱについては、グループで机に座って話し合いをした結果、似たような意見は、補足したり、言葉をつないで新しい言葉が生まれたりしていました。話し合いを通してそれぞれの考えを深めることができたのではないかと思います（資料12③）。全体交流では、他のグループの意見を見て表現の違いに気づき、良さを認め合うことができました。

視点Ⅲについては、全員の生徒（27人）が振り返りの中でその後の実践意欲や態度につながる記述があり、授業を通してそれぞれ何らかの形で周りの人への思いを抱かせることができたのではないかと思います（資料12①②③）。

イ 11月の授業で使用した生徒ワークシートによる考察

11月の授業は、前時の担任による授業を振り返ることで、その時の自分の思いを想起しながら教材を読み、自分の意見をもたせた後、自由交流を取り入れました。視点Ⅰについては、全員が将来について考え、働くことに関する考えの記述ができました。（資料13）

次に視点Ⅱについて、自由交流により、他の意見に触れながら、今の自分の現状を振り返り、他の意見を知ること自分自身のことを深く考えることができていたよう

①私は、自分のことしか考えていなかったり、周りにたくさんの迷惑をかけたりしていたので、とてもいい学習ができたと思います。……もつと団結を深めるために自分にできることは、進んで取り組みたいです。

②合唱コンクールや体育大会はみんなが一つになって取り組む必要があります。……みんなでよりそい、支え合うことが必要だと思いました。

③苑子話を聞いて周りの人の優しさなどに支えられているから今の自分がいるんだと改めて感じました。なので私も人にとってプラスになることをして、たよられる存在になりたいなと思いました。

資料12 10月の生徒のワークシート様式⑤の記述

人生で職業選択を迫られると実感しました。正解がないので、どの道を選んでも一生懸命働き、後悔したくないです。私は1番で安定した仕事を選びました。しかし、友達と話し合っていくうちに、好きな仕事の方でもいいなと思いました。……話し合いをしていくうちに、自分の考えに自信が持てたし、他の意見や考えを聞くことができとても良かったです。話し合いをしたことで、自分の考えを広げることができました。

資料13 11月の生徒のワークシート様式⑤の記述

に思います（資料14①）。また、前頁資料13のように友達のを聞いて揺れ動きつつ、自分の考えを振り返り、自信につなげていきます。

視点Ⅲについても、本時の振り返りの記述の中で「将来に向かってがんばりたい」「しっかり考えていこうと思う」「自分の考えをもち、何事もやり遂げていきたい」との記述が全員に見られました。資料14②は、自分との関わりで考え、教材や交流からたくさんの意見に触れ、自分なりの思いを抱いていました。

生徒の記述を視点Ⅰ～Ⅲに沿って見てみ

ると、行事等で実際に感じたことを授業で扱うことやネームプレートによる考えの可視化、自由交流により、生徒が教材を通して考えた課題を自分事として考え、これからの生活や生徒自身の行動につながるような振り返りができていたことから、手立てが有効であったと考えます。

①私は初め好きな仕事につきたいと思っていたけど、Bさんの意見を聞いて現実的な仕事につくのもいいなと思いました。私ももう中三で夢が決まっていなくて、すこしあせっていたところもあったけど、あせる必要はないんだと思いました。

②自分だったらどうするだろう？とか、どうしたら一番良いかなどをたくさん考えました。私はやってみる！ということが生きていく中で大事だと思いました。

資料14 11月の生徒のワークシート様式⑤の記述

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

生徒の事前実態調査（9月実施）を見ると、資料1の質問項目6「道徳の授業でよく覚えていること、内容などを教えてください」という問いに、体育大会や中体連前に行った道徳の授業を挙げた生徒がほとんどでした。10月の事後実態調査でも、それらの授業に加え、その後に行われた「進路のゆくえ」を挙げている生徒が数人いました。11月の事後実態調査になると、「進路のゆくえ」に加え、検証授業②の内容を含め、進路に関する授業を挙げている生徒が8人増えていたので、身近に体験すること、自分も同じ状況になることなどがあると学んだことが心に残り、実感も伴うのではないかと感じました。

また、対話について、10月の事後実態調査では一人一人が自分の考えをもって交流した授業が心に残っていると挙げた生徒が5人いました。資料1の質問項目26「道徳について自由に自分の思いを記述してください」に対しては、「自分の考えを述べられる（5人）」、「友達と一緒に深められる、たくさんの考えを知ることができる（9人）」、「自分に重ねて考えている、自分を振り返ることができる（3人）」と記述していました。11月の事後実態調査でも、交流学习について「友達と意見を交流したり、教科書の意見を読んだりしましたが、自分の考えが変わったり、自分の考えについて思ったとおりでいいと深めたりしたことがありますか」という問いに対して、「自分だけの視点だけではなく、他の人の視点からも考えることで、考えが変わったり、理解したりできるようになった」との記述がありました。さらに、ほとんどの生徒は友達との意見交換で同じ意見の時は「これでいい」と自信をもったり、違う意見だった場合でも、「他の意見も受け止めながら自分の意見を決めたり、意見が変わったりした」との記述もありました。これらの結果から、体験活動時のことを振り返りながら、教材を通して自分の考えをもち、その後の話合いで様々な意見に触れることがその後の生活に生きるような考えをもつことにつながっており、手立てが有効であったと考えます。

3 研究のまとめ

(1) 成果

- 体験活動を生かした授業を構成することで、体験時の思いを想起し、活動に込められている道徳的価値を生徒が自分自身との関わりで感じ取り、「自分なら」「自分も」と考え、思いをしっかりとワークシートに記述できました。生徒の心に響き、実践意欲を高める授業を提案できたと思います。
- 内容項目や教材、生徒の実態から対話の形態を工夫することでねらいに迫ることができ、特に自由交流については、方法を示すとさらに効果的であることが分かりました。また、話し合いで生徒自身が考えたことを何度も友達の意見と比較しながら、自分の考えに自信をもったり、考えが変わったりすることで、それぞれの考えを深めることができました。

(2) 課題

- 今回は、3年生の2学期を中心とした授業計画の作成のみでしたが、効果的に道徳的価値の自覚を深めるために、教科等も含めた体験活動と道徳科の授業の組み合わせを更に研究していきたいと思います。
- 体験活動を生かした授業を行う場合は、ねらいを明確にした上で、授業で想起した体験活動について次の体験活動まで意識を継続させる指導の工夫が必要であると思います。
- 授業で深めた道徳的価値を実生活の中ですぐに実践することは難しいと思うので、授業で身に付けた道徳的実践意欲と教育活動や日常生活をつなぐための事後指導も考えていく必要があると思います。

4 引用文献・参考文献

《引用文献》

- (1) 柴原 弘志編著 『新学習指導要領の展開』 平成28年2月 明治図書 pp.11-12
- (2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』 平成29年7月 p.26
- (3)(4)(5)(6) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』 平成29年7月
p.13, p.15, p.77, p.82
- (7)(8) 横山 利弘著 『道徳教育、画餅からの脱却』 平成19年7月 p.173, p.162
- (9) 押谷 由夫編著 『中学校教育課程実践講座 特別の教科 道徳』 平成30年3月
p.178

《参考文献》

- ・田沼 茂紀編著 『道徳科授業のつくり方 パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価』
平成29年8月

第3学年 道徳科学習指導案①

- 1 主題名 周りの人に支えられて【内容項目B－（6）思いやり，感謝】
 2 教材名 埴生の宿（出典「新しい道徳3」東京書籍）
 3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

思いやりの心は，自分が他者に接するとき，他者の立場を尊重しながら，親切にし，いたわり，励ます生き方として表れる。無関心や排他的言動は人間関係を良好にすることにはつながらない。人間は，互いに助け合い，協力し合って生きている。互いの存在を，強さも弱さも持ち合わせた生身の人間として，肯定的に受け止めようとする思いをもつことは，極めて大切なことである。

また，周囲の思いやりの心を素直に受け止め，それに応えようとする姿のすばらしさに気付き，共によりよい関係を築こうとする思いをもたせることは大変意義深いと考える。

○生徒の実態について

本学級の生徒は，明るく素直で様々な活動に積極的に取り組むことができる生徒が多い。

しかし，仲が良いもの同士で人間関係が固定化しており，時折，軽はずみな言動や自己中心的な言動が見られ，傷ついてしまう生徒もいる。そこで，今回の授業で周囲に目を向け，互いの異なる特徴や個性を認め合い，尊重し，励まし，支え合い，高め合う体験によって人間としての成長を図る大切さに気付かせたいと考えている。

○教材の活用について

本教材は，あるつらい事件に巻き込まれ，言葉や感情，すべての成長を奪われた苑子が教師やクラスの仲間が積極的に関わるようになり，存在を認められたことで，変容していく姿を通して，思いやりの心で内面的な良さに目を向け，豊かな人間関係を築くことについて学ぶことのできる教材である。

「苑子」は，クラスの中で様々な役割を免除されていた。クラスからはそっとしておくことが彼女への最大の優しさであり，いたわりだと思われていた。しかし，ある一人の生徒が苑子は歌が好きだったことを思い出し，「歌を歌うこと」で教師や仲間の関わりにより，苑子に変化がみられる。この成長をクラスが認め，みんなで取り組んだため，苑子も一人ではない，クラスの支えに応えようと成長することができたのである。

苑子に変化するまでのクラスの関わりや苑子に変化した理由を考えつつ，自分自身は周囲の人にとってどのような存在でありたいかを考えさせるという視点で教材を活用したい。

○指導の重点

導入では，昨年度の合唱コンクールの動画を見せて，取組の過程を想起させ，その時の気持ちや出来事から，合唱はみんなで作り上げるものだという思いをもたせたい。展開では，教材の内容を人物に沿って，出来事やそれぞれの思いを整理し，その後，苑子の変化を感じ取らせるために，理由を問い，自分の考えを表現させる。次にグループで意見交流を行う。自分の考えを伝えたり，友達の考えを聞いたりして，話し合わせることでクラスにとっては誰もが大切な存在であること，周囲の温かさには人を変える力があることに気付かせたい。さらに終末では，自分自身が周囲の人にとってどのような存在でありたいか，自分自身のこととして考え，よりよい人間関係の在り方を考え，これからの日常生活で意識して生活していきたいという気持ちを高めたい。

4 ねらい

クラスの仲間と主人公が関わり合い、変容していく姿に共感することで、誰に対しても思いやりの心をもって共に生きようとする意欲を高める。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と 予想される反応(・)	指導上の留意点 『予想される生徒の変化』『教師の願い』
導 入 ／ 展 開 ／ 終 末	1 日常生活のある場面について考える。	○去年の様子を振り返ってどうだったか。 ・みんなで頑張った。 ・よく歌った。 ○何のために合唱コンクールがあるのだろう。	・動画を見せて昨年度の合唱コンクールを想起させる。 ・生徒自身が合唱コンクールの取組みの状況を想起し、気付いたことを今後の自分自身の取組に生かすように問いかける。
	2 教材を読んで考える。	○なぜ「埴生の宿」を合唱曲にしたのか。 ・苑子が歌えるから。 ・苑子も一緒に歌いたかったから。	・苑子について尋ね、苑子の置かれた状況を把握させる。
	【書く活動①】 個→G→全体	○苑子が変わったのはなぜだと思うか。 ・周りの温かさに気付いたから。 ・認めてもらえたから。 ・一緒に活動する楽しさを感じたから。 ・仲間だと思う気持ちが伝わったから。	・苑子の変化に着目させ、自分自身との関わりで考えるように伝える。 誰に対しても思いやりの心をもって共に生きようとする考えをもっている。
	【書く活動②】 個→全体	○周りの人にとってあなたはどのような存在でありたいか。 ・仲間を支えることができる。 ・仲間と一緒に成長できる。 ・積極的に関わり、協力できる。 ・一緒にいて、安心できる。	・問い返すことで周りの人に支えられていることに気付かせる。 ・全体共有の際、グループから出たホワイトボードを見て、キーワードや新しい発見だったことを尋ね、色ペンで囲んだり、ラインでつないだりして思いを深める。 ・「自分のため」としか考えていない生徒がいるので身近な体験活動の例を出し、周りの人の存在やその大切さに気付かせる。 多くの人と関わり合って生きていることに気づき、大事にしようという気持ちをもっている。
	3 これからの自分について考える。 【書く活動③】	○今日の学びや思ったこと、考えたことなどを自由に書こう。	・これからの生活に生かしたいことにつなげられるような振り返りにする。

1.（何のために合唱コンクールがあるのでしょうか。）

2.（苑子が変わったのはなぜだと思いますか。あなたの考えを書きましょう。）



★.（周りの人にとってあなたはどのような存在でありたいですか。）

◎今日の学習を振り返って自分の心の中で感じたこと、考えたことなど、自由に書きましょう。

教科書挿絵
苑子の画像

【本時の振り返り】

できた まあまあ あまり できなかった

1	今日の授業は充実していましたか。	4	3	2	1
2	今日の授業では自分の考えがしっかり言えましたか。	4	3	2	1
3	今日の授業では友達の見解をしっかりと聞けましたか。	4	3	2	1
4	今日の授業で考えたことをこれからの自分に生かそうと思いますか。	4	3	2	1

第3学年 道徳科学習指導案②

- 1 主題名 将来の自分を見つめて【内容項目C－（13）勤労】
- 2 教材名 好きな仕事か安定かなやんでいる（出典「新しい道徳3」東京書籍）
- 3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

働くことは、人間生活を成立させる上で大変重要なものである。人が職業に就くのは、生活を維持することだけではなく、自らの能力を発揮したり、社会の中で生きがいを感じたりするなどの面がある。

また、中学生のこの時期は、夢や理想をもち、他者と関わり、様々な葛藤や経験の中で自分自身の人生や将来の生き方を考え、模索する時期にある。だからこそ、働くことへの意義について考えを深め、心から満足し、充実した生き方への考えを深められるようにしたいと考え、本主題を設定した。

○生徒の実態について

本学級の生徒は、明るく素直で様々な活動に積極的に取り組むことができる生徒が多い。

しかし、自分の将来の生き方に関わることを考える際は、目先のことで判断してしまい、安易に考えがちな生徒も多い。実態調査によると、卒業後の進路は、「決めている、だいたい決めている」と答える生徒が9割程度いるのに対し、将来の夢や目標が決まっている生徒は、7割程度であった。そこで、進路選択を目の前にしたこの時期に、勤労の尊さや意義について正しく理解し、生きがいのある人生を実現しようとする心情を育てたいと考える。

○教材の活用について

本教材は、ある大学生が卒業後の進路選択において、「理想的な生き方」と「現実的な生き方」のどちらを選択するかについて悩み、新聞に投書したことに対し、それぞれの生き方を選んだ人、自分も同じように悩んでいる人の意見が述べられており、様々な考え方があることを学ぶことのできる教材である。

それぞれの意見を知り、共感したり、自分自身の意見が新たなものになったりして、自分の考えに近い意見を選ぶ。選んだ理由を考え、大学生へのアドバイスを書くことで進路選択をどのようにしていきたいかを考えさせるという視点で教材を活用したい。

○指導の重点

導入では、事前アンケートの結果から自分自身の進路について想起させつつ、学級全体の様々な思いを知り、それぞれの思いと自分自身のことを比較させながら考えさせたい。

展開では、教材にある大学生の投書に対するそれぞれの思いを整理し、その後、4人の意見を知り、自分の考えと比較して納得できる意見を選択させ、理由と根拠を表現させる。次に、それぞれが選んだ意見が分かるように、黒板にネームプレートを貼り、自由交流を行う。自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、話し合わせることで進路選択の上でそれぞれの思いがあることに気付かせたい。

さらに終末では、自分の考えと友達の考えを踏まえながら、大学生へのアドバイスを書く形で、自分自身の進路選択への考えをまとめさせ、これからの日常生活で進路について考え、意識して生活していきたいという気持ちをもたせたい。

4 ねらい

職業選択に関するさまざまな立場からの意見に触れ、将来の生き方について考えを深め、充実した生き方を実現しようとする心情を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点(予想される生徒の変化(教師の願い)！)
導入	1 以前学習した内容を想起する。	○10月末に動画を使って学習した道徳の授業を覚えていますか。 ・「進路のゆくえ」 ・サッカー選手と介護福祉士の話 ・どちらにするか悩む話	・生徒自身が取り組みの状況を想起し、今後の自分自身に生かすようにさせる。
	入	○11月にとった道徳アンケートの結果を見てみよう。 ・中学校卒業後の進路を決めていますか。 ・将来の夢、目標が決まっている人は教えてください。 ・何を大事にして決めましたか。(決めますか)	・決めている生徒もいるが、迷っている生徒もいることに着目させ、大事な判断だから迷ってよいことを知らせる。 ・決まっていなくても、悩んでいても、それぞれの思いを大切にさせる。
展開	2 教材を読んで考える。 個→ペア	○あなただったら好きな仕事を選ぶか、安定した仕事を選ぶか。理由も書こう。	・投書の文章のみを読み、自分が選択する立場に立って、真剣に考えさせる。
	【書く活動①】 個→自由交流→全体	○四人の意見を読み、自分の考えに近い、納得いく意見を選び理由や根拠を書こう。 ・A：気の進まないことを無理してやるより、やりたいことを喜んでやる方が多くを成し遂げられるという点に共感したから。 ・B：現実的な生き方を選んでも、充実した生活を送ることができるから。 ・C：46歳の男性でもいろいろなことをしているので、自分でもできると思うから。 ・D：自分も今やりたいことが成功するか分からなくて、悩んでいるから。	進路を選択する上で大事だと思うことについて自分なりの考えをもっている。 ・A～Dのどの意見を選んだのか、ネームプレートを貼らせる。 ・自由交流では、同じ意見の人も交流するが、特に違う意見の人との交流を大事にさせ、積極的に交流するように促す。 ・友達の意見は簡潔にしてメモを取らせる。
終末	【書く活動②】 個→全体	○大学生の投書にアドバイスしよう。あなたの思いを生かしてあなたなら、どのようなアドバイスをしますか。具体的に書きましょう。	自分の将来において充実した生き方にしようという気持ちをもっている。 ・現在日本にある職業数を知らせ、たくさんある中から選択していくことを意識させる。
	3 これからの自分について考える。 【書く活動③】	○今日の学びや思ったこと、考えたことなどを自由に書こう。	・これからの生活に生かしたいことにつなげられるような振り返りにする。

1

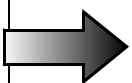
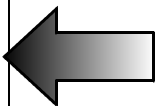
好きな仕事・安定した仕事

理由・根拠

4 大学生にアドバイスをしよう。具体的に書きましょう。

2意見

理由・根拠など



教科書画像
魚屋

3 友だちの考え（自由にメモを取ろう！）

★自分の思いや学習を振り返って、心の中や感じたこと、考えたことなどを書きましょう。

教科書画像
パン工場

今日の振り返り

- ・真剣に考えることができましたか。
- ・自分の考えを言えましたか。（交流）
- ・友達の考えと自分の考えを比べることができましたか。
- ・今日の授業で考えたことをこれからの生活に生かそうと思いますか。

できた まあまあ あまり できなかった

4	4	4	4
3	3	3	3
2	2	2	2
1	1	1	1

次のことについて、あてはまる番号に○をつけてください。記述のところは自分の考えを書いてください。

	No	質 問 項 目	(できている) そう思う	だいたいそう思う (できている)	あまりそう思わない (できていない)	(そう思わない) できていない
道徳の授業について	1	道徳の授業は好きだ。	4	3	2	1
	2	道徳の授業は自分にとって大切なことが分かると思う。	4	3	2	1
	3	道徳の授業では自分の思うことを発言できている。	4	3	2	1
	4	道徳の授業では、今までにあったことを思い出してその時の自分と比べながら考えている。	4	3	2	1
	5	道徳の授業では、これからの自分は、こうしていきたいと考えている。	4	3	2	1
	6	道徳の授業でよく覚えていること、内容などを教えてください。 (中学校に入ってから今までに学習した内容で)				
話し合いについて	7	話し合い活動が好きである。	4	3	2	1
	8	話し合いで友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている。	4	3	2	1
	9	話し合いで、はっとしたり、なるほどと思ったりすることがある。	4	3	2	1
	10	話し合いで自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	4	3	2	1
	11	話し合いは、自分の考えを広げたり、深めたりするために役に立つと思う。	4	3	2	1
自分のこと	12	自分には、良いところがあると思う。	4	3	2	1
	13	将来の夢や目標をもっている。	4	3	2	1
	14	中学校卒業後の進路を決めている。	4	3	2	1
	15	ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある。	4	3	2	1
	16	友達やたくさんの人と協力してみんなで取り組むことはいいことだと思う。	4	3	2	1
	17	学級や学校などで自分の役割を自覚し、責任をもって取り組むことができる。	4	3	2	1
	18	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある。	4	3	2	1
	19	〇〇町や日本の伝統文化は、大事にしたいと思う。	4	3	2	1
学校行事のこと	20	体育大会本番では、道徳で学習したこと(むかで競争)を思い出した。	4	3	2	1
	21	体育大会では、どんな力をつけましたか。具体的に書いてください。				
	22	つけた力をどこかで生かしましたか。(いつ、どこで、どのようなときに・・・など具体的に書いてください。)				
	23	修学旅行では、どんなことを学んできたいと思っていますか。				
	24	文化祭や合唱コンクールでは、どんなことを心がけたり、学んだりしますか。				
道徳について	25	その他、道徳について自由に自分の思いを記述してください。				